

橋梁補修と橋梁MAEを活用した点検を組み合わせた試行工事について

【目的】

橋梁補修工事に小規模橋梁の点検業務を組み合わせることで、修繕工事を促進するとともに橋梁MAEの点検スキルを磨き上げ、地域に精通した建設業者による橋梁メンテナンス体制の確立と長寿命化の推進を図る。

【試行工事の概要】

■対象

工事：設計ストックのある橋梁。また下記点検の結果、判定Ⅲとなった橋梁については、補修工事について受注者と協議する
点検：橋長が概ね10m未満の小規模橋梁（橋梁MAEが点検可能な橋梁）≒職員による直営点検を予定している橋梁

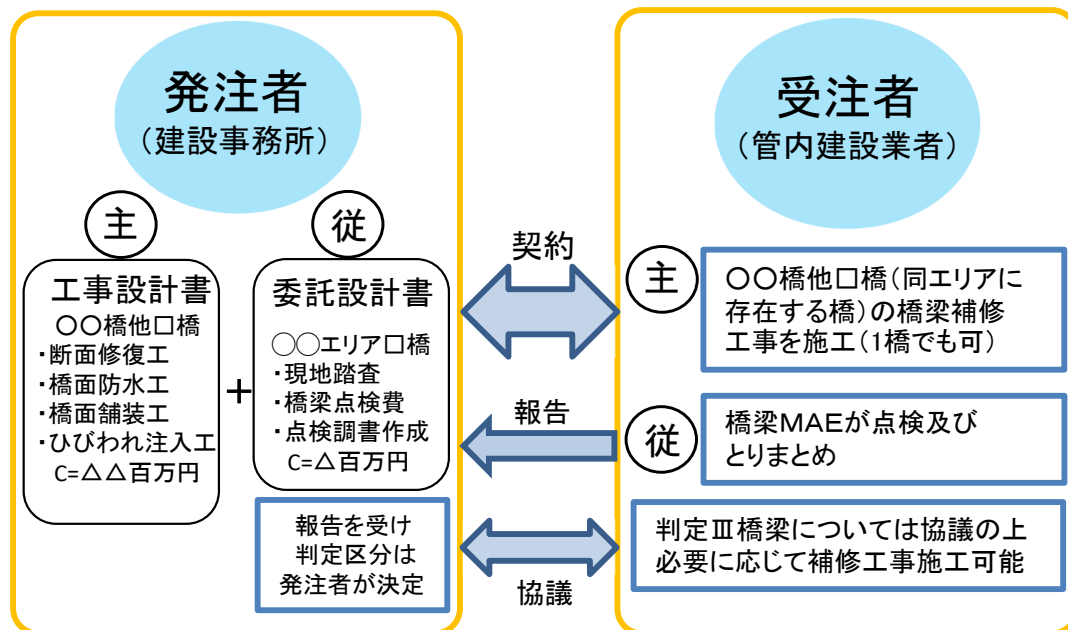
■橋梁MAEの活用法

- ・橋梁MAE（元請けまたは一次下請）が点検を行う。
- ・点検結果は取りまとめて発注者に提出し、診断（判定区分の決定）は発注者が行う。

■期待される効果

- ・地域に精通した意欲のある建設業者の橋梁MAEに点検の機会を提供することで、点検スキルの向上が図られ、担い手の裾野拡大に資する
- ・橋梁MAE取得にインセンティブを付与（新たな生業を提供することで、管理者の分身となる点検技術者を育成できる）
- ・点検結果を踏まえ、必要に応じて補修工事を行うことで迅速なメンテナンスが可能となり、修繕着手率の向上、コスト削減、長寿命化が図られる
- ・発注者においては、直営点検及び入札事務の負担軽減となる

【試行工事イメージ】



【Q&A】

Q1: 受注者にとってのメリットは？

⇒県内に多数存在する小規模橋梁の点検スキルを身につけることで、従来の橋梁補修に加えて橋梁点検という新しい業務の受注が可能になります。またその後の修繕まで一体的に行うことで、工事量の増加が見込まれます。

Q2: これまでの橋梁点検との住み分けは？

⇒これまで職員が直営で実施していた小規模橋梁の点検を対象としているため、一般の橋梁点検は引き続きコンサルタントへ委託します。

橋梁補修工事に併せて行う橋梁MAEを活用した橋梁点検の事例

発注事務所：飯田建設事務所
点検橋梁数：8橋
点検年度：令和6年度
対象橋梁：橋長が概ね10m未満
の小規模橋梁

【点検から診断の流れ】

①現場点検:3週間程度(8橋)



②発注者も橋梁MAEと共に現場状況を確認



③橋梁MAEから提出された点検結果をもとに、発注者において診断



事例① RC床版橋 L=3.1m



事例② RC床版橋 L=2.0m

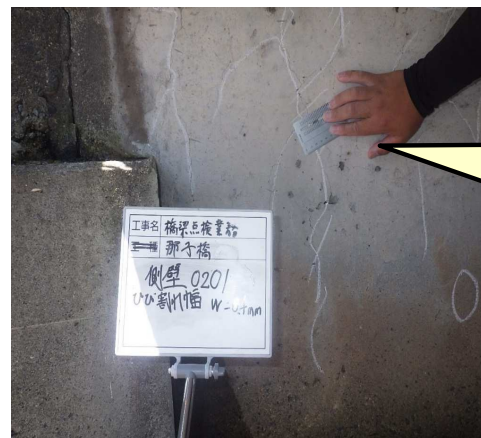
【点検結果および診断】



主桁損傷状況
(判定区分Ⅲ)

主桁の
剥離・鉄筋露出
がみられた

長野県道路橋定期点検要領に基づき、Ⅲ判定



側壁損傷状況
(判定区分Ⅲ)

ひび割れ幅
0.4mm

長野県道路橋定期点検要領に基づき、Ⅲ判定

【効果】

発注者

- 直営点検に比べ、現地調査やシステム入力などの作業に係る職員の負担が軽減

橋梁MAE

- 現場経験となり、スキルアップ、担い手育成に寄与